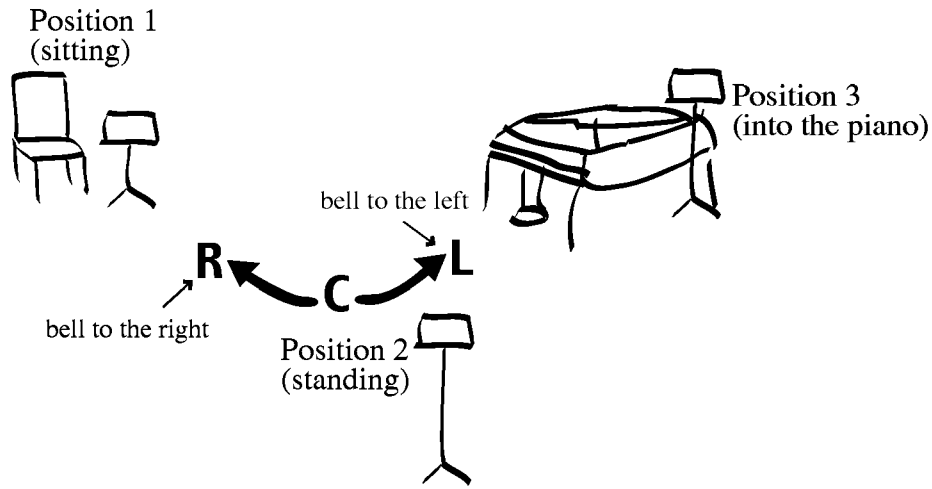


# さ (Sa) for French Horn solo

松崎裕に  
1999

高橋悠治



## Position 1

Emphasize the microtonal difference and tone color with alternate fingerings.  
替え指によるピッチや音色の微妙な違いを強調する。

valve  
hand in the bell  
Bb1  
RH

F1-2 (2x) F1-2 t.t.t.... (3x)

F1-2 F1-2 F1-2

F1-2 (3x) Bb1

(talking) (talking) (whispering)

さ は ら ひ  
sa fa ra fi

さ さ さ さ  
tsa tsa tsa tsa

→ Position 2

Play any fragment you see in A then look again and play what you see.

Position 2 どのAの断片でも見えたものを演奏し、また次に見えたものに移る。

**A**

center bell to the left bell up down to the right

*p* *mf* *p* *mf* *f* *mf* *p* *p* *mf* *p* *f* *mf* *p*

Gradually mix in the fragments in B.

次第にBの断片を混ぜ込む。

**B**

*gliss.* *mf* *mf* *mf* (talking)

tsa tsa sa we sa we

When all the fragments are from B, move to Position 3.

Bの断片ばかりになったら、Position 3に移る。

Play any fragment you see on the page, then look again and play what you see.

**Position 3** このページのどの断片でも、見えたものを演奏し、また次に見えたものに移る。  
(into the piano with pedal on)

Bb1 1 (listen to the echo) *mf p*

F2-3 F0 Bb0 0 1-2 (listen to the echo) *mf*

Bb0 *gliss. ff*

Bb0 *gliss. ff* 1 1-2

F1-2 *sfz f* dl.l.l....

Bb1-2 0 0 0

F0 *f*

F0 0 1-2 1 *mp*

(talking)

さ く り もよよ  
sa ku ri moyoyo

(talking)

さ は ら ひ  
sa fa ra fi

(whispering)

さ さ さ さ さ さ  
tsa tsa tsa tsa tsa tsa

(2-5x)

→ Position 2

Position 2 Play any fragment you see in C then look again and play what you see.

どのCの断片でも見えたものを演奏し、また次に見えたものに移る。

**C**

gliss.  $Bb0$  0 2 0 0 2-3 0  $Bb2$  2 0 0  $F0$  2 0 2-3 0 2-3

*mf*

(talking) (whispering) (whispering)

さゑ さゑ さ は ら fi  
sa we sa we tsa tsa tsa tsa sa fa ra

Gradually mix in the fragments in D.

次第にDの断片を混ぜ込む。

**D**

center bell to the left bell up down

$Bb0$   $F2$  2  $Bb1-2Bb0$   $F0$  0 2-3

*p* *mf* *p* *mf* *f* *mf* *p*

L  $F0$  0 0 0 C  $F2-3$  0 0 0 R to the right C  $Bb0$  0 0

*mf* *mp* *f* *mf* *p*

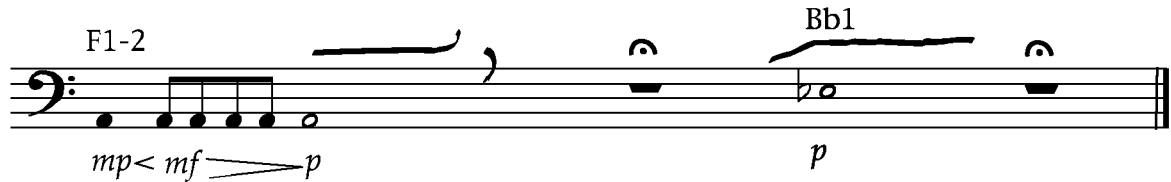
**E** (play as written)

$Bb0$  gliss. gliss.

*mp* *t.t.t...*  $Bb1$  (walk to Position 1)

*mf* *p* *f* *mp* *f* *p* *f* *mp* *p* *mp* *sfz*

Position 1



ホルン・ソロのための「さ」 (Sa) ~松崎裕に

高橋悠治

ホルンという楽器は、唇、左手のバルブ、ベルに入れた右手の組合せで音程や音質を調整する。均質な音色と調整されたピッチを得るためのこれらのメカニズムを、それぞれ独立にうごかせば、多彩な音色とピッチの微妙な差を強調することもできる。それによって、これまで何世紀もかけてつくりあげられたホルンの演奏技術は逆転する。

20世紀音楽は、いままでに獲得したものの上に、特殊な音色や奏法、複雑なうごきを付け加えただけだった。  
「これもあれも」という消費の加速のはてには、音楽の死が待っている。自由への道は「これでもなく、あれでもない」と、なにも否定することなしに理解し、それらから離れてゆくことだ。

古代日本語で「さ」という音は、霊的なものにみたされた状態をあらわしていた。世界のいたるところで古代から、動物の角や巻き貝でつくられた楽器が、森や山にひそむそれらの力によびかけるためにつかわれてきた。

この音楽は、ホルンという楽器にその記憶をとりもどさせるための、心をこめた儀礼だと、考えてくれてもいい。

座っていても、立っていても、楽器自身が、それぞれの音のもつ意味を覩つづける。そして、ペダルを踏んだ状態のピアノの弦をつかって、彼方からの木霊を聴き出そうとする。